

## 若手地盤工学セッション

## 第4回地盤工学若手技術者会議 (4iYGEC) 参加報告

Report of 4th International Young Geotechnical Engineer Conference

森 口 周 二 (もりぐち しゅうじ)

岐阜大学特別研究員 社会基盤工学科

2009年10月3日から10月6日の期間, エジプトのアレキサンドリアで第4回地盤工学若手技術者会議(4iYGEC)が開催された。本会議は第1回のイギリス, 第2回のルーマニア, 第3回の大阪での会議に引き続いて行われたものであり, 前回と同様, 国際地盤工学会議に合わせ開催された。我が国からは, 渡辺健治博士(鉄道総研), 菊本統助教(名工大)と筆者の3名が参加し, 会議全体では42カ国から83名の若手技術者が参加した。

前半の2日間は, 開会式での国際地盤工学会会長の挨拶とカリフォルニア大学 Elgama1 教授の基調講演に引き続いて, 前半の2日間は各国の参加者による研究発表と活発な質疑応答が行われた。発表は表-1示すようなテーマに分類され, 2日間で12セッションが行われた。二つのセッションが並行して進行したため, 発表と質疑応答に対して十分な時間が与えられたが, 世界各国から集結している若手技術者達の発表をすべて見る事ができないという点では残念だった。後半の2日間は第17回国際地盤工学会議への参加がプログラムに組み込まれており, 最終日には, 第17回国際地盤工学会議の中で, 4iYGECの開催報告が行われた。

会議全体の発表内容に関しては, 実務的なものが多く目に付いた。地盤工学的課題のある現場の紹介に始まり, 商用の解析プログラムやソフトを用いて現象を再現することで問題解決の材料とするものである。既に高度化された道具を使って, 現在直面している問題を取り扱うことは工学的に有意義といえるが, それらの研究の多くが後世に残る研究であるかという問いに対しては疑問を覚える。我々若手研究者が挑戦的な研究テーマを掲げてこそ地盤工学は発展すると私は考える。そういった意味では, 若手技術者の勢いを感じる研究テーマが少なかったことに少し寂しさを感じた。ただし, 若手技術者のエネルギー溢れる独創的かつ挑戦的な研究テーマもいくつか含まれていたことを付け加えておく。また, 研究内容だけでなく, 各国の若手技術者の堂々とした発表態度や質疑応答時の落ち着いた受け答えなど, 同年代の若手技術者として多くの刺激を受けた。

開催場所のホテルでは, 2人1組の相部屋が用意され, ルームメイトは事前に決められていた。初めは戸惑ったものの, 他国の若手研究者と長時間接することで, 会話の内容も研究外のことにまで及び, 非常によい経験となった。近未来において様々な場面で競い合い, 協力するであろう世界の技術者達と交流する機会に恵まれたこと

に感謝し, 本会議の次回以降のますますの発展を祈念する。(原稿受理 2009.11.2)



写真-1 集合写真

表-1 セッションテーマと発表数

テーマ	発表数
地盤挙動	12
地盤改良・補強土	15
浸透流・地盤環境	8
斜面安定・地すべり	11
基礎構造物	12
擁壁	12
地盤構造相互作用・リスクマネジメント	9
地中構造物	10

表-2 参加者の構成

国(学会)	人数	国(学会)	人数
アルゼンチン	1	イタリア	2
オランダ	2	アメリカ	3
オーストリア	2	カナダ	2
ベルギー	3	メキシコ	1
アイルランド	2	ブラジル	1
ポーランド	1	日本	3
クロアチア	3	韓国	1
ニュージーランド	2	東南アジア	4
ノルウェー	2	香港	1
チェコ, スロバキア	3	タイ	1
デンマーク	2	シンガポール	3
ポルトガル	2	カザフスタン	2
フランス	2	インド	1
ドイツ	2	パキスタン	3
ギリシャ	2	マケドニア	1
スペイン	2	アルジェリア	1
スウェーデン	2	エジプト	6
スイス	2	ブルンジ共和国	1
ハンガリー	3	南アフリカ共和国	2
スロベニア	1	チュニジア	2
トルコ	2	オーストラリア	2
ウクライナ	2		
イギリス	2	合計	※89

※当初予定していた参加人数(実際の参加人数は83名)